

# 連携組織図と取組の展開

## 中国・四国産業界の人材ニーズに対応した協働型人材育成事業

### 連携校

\*鳥取大学、\*山口大学、☆高知大学、鳥取環境大学、山口県立大学、高知県立大学、高知工科大学、徳山大学、梅光学院大学、\*松山大学、松山東雲女子大学、鳥取短期大学、松山東雲短期大学、高知学園短期大学（☆幹事校、\*副幹事校）

### 連携団体

鳥取県、鳥取県商工会議所連合会、山口県経営者協会、山口県若者就職支援センター、愛媛県中小企業団体中央会、愛媛県中小企業家同友会、えひめ若年人材育成推進機構、土佐経済同友会、高知県中小企業家同友会

運営幹事会(幹事校・副幹事校・連携団体):取組テーマのための共通プログラムの開発・試行・検証と事業評価

### 協働型キャリア支援システム研究会

(座長)山口大学

全連携校、連携団体参加

- ① 連携校が独自に行っているキャリア形成支援の成果を産業界とともに共有する。
- ② 運営幹事会が提供する共通プログラムについて産業界との情報共有・意見交換を行う。

### 教育改善・FD研究会

(座長)松山大学・高知大学

全連携校、連携団体参加

- ① 連携校が独自に行っている学生の汎用的能力の評価手法を産業界とともに共有する。
- ② 運営幹事会が提供する共通プログラムについて産業界との情報共有・意見交換を行う。

### 協働型インターンシップシステム研究会

(座長)鳥取大学

全連携校、連携団体参加

- ① 連携校が独自に行っているインターンシップの成果を産業界とともに共有する。
- ② 運営幹事会が提供する共通プログラムについて産業界との情報共有・意見交換を行う。

### 鳥取県地域コラボ会

県内の  
連携校



県内の  
産業界

### 山口県地域コラボ会

県内の  
連携校



県内の  
産業界

### 愛媛県地域コラボ会

県内の  
連携校



県内の  
産業界

### 高知県地域コラボ会

県内の  
連携校



県内の  
産業界

平成24年度

2月  
運営幹事会

3月  
研究会

平成25年度

5月  
運営幹事会

6月  
研究会

地域コラボ会

11月  
研究会

地域コラボ会

3月  
運営幹事会

平成26年度

5月  
運営幹事会

6月  
研究会

地域コラボ会

11月  
研究会

地域コラボ会

3月  
運営幹事会

・場の設定と基本方針の確定

・産業界のニーズを反映させた共通プログラムの開発試行  
・開発された共通プログラムの研究会における共有とフィードバック  
・独自取組の産業界と連携校による共有・意見交換

・共通プログラムの成果分析と達成度アセスメント  
・取組によって得られた産業界のニーズを反映させた各校の教育改善に関する検討  
・事業評価

## 取組テーマの概要

目的	自律型人材の育成／地域の企業で働くことの意義や社会的価値の醸成／産業界との信頼コミュニティの形成		
テーマ	協働型キャリア形成支援システム	教育改善・F D	協働型インターンシップシステム
課題	<p>連携校は、独自に様々なキャリア形成支援策を講じてきている。その中には、中小企業で働く仕事観の醸成といったものも含まれる。しかし、こうした取組が必ずしも地元産業界にとって好ましい状況を生み出していないのも現実である。学生自身が、地方の中小企業で働く価値や社会的意義を感じていないことが主要な原因の1つと考えられる。</p>	<p>大学等のカリキュラムに、キャリア形成支援科目やインターンシップが正課として配置されるようになったが、それらの科目で育成しようとする学生の汎用的能力を評価する指標はまだまだ開発されていない。このことが、ステークホルダーとしての産業界のニーズを大学教育の改善に取り入れることを妨げている。</p>	<p>インターンシップは「職業体験」とする考え方が、受入企業にインターンシップの受入は社会貢献という誤解を与えるきっかけになった。「貢献」が軸になると、実習方法に大学が意見を述べることは厳しい。他方、受入サイドは、学生に対して行うべき本質的な支援を理解しないまま、お客様として実習支援を行うことに繋がる。結果、学生は実習に達成感も充実感も感じず、受入先は学生の反応の悪さに徒労感を覚えるという負の連鎖が起こる。</p>
協働化の視点	<p>キャリア形成支援の協働化は、地方の中小企業で働く価値や社会的意義を醸成することを主眼に、連携校が共同で利用できる共通プログラムの開発をテーマに取り組む。この際、(a)多様な地域で学ぶ学生の相互交流から得る価値、(b)地域文化に根差した多様な企業関係者と触れ合うことの価値、(c)大都市圏から地方を見ることの価値を十分に踏まえたプログラムの開発を行う。</p>	<p>学生の汎用的能力に関わる「望ましい振る舞い」の要素を抽出し、それらを反映した評価指標を開発する。具体的には、産業界の関係者も参加して開発する「協働型キャリア形成支援に係る共通プログラム」と「協働型インターンシップのモデルプログラム」の検討・実施に直接関わる形で取組を進める。</p>	<p>キャリア支援の協働化は、期間の長さに関係なく、協働する関係者間に信頼コミュニティを醸成することで、学生の成長を必ず派生させ、受入企業のイメージ向上さらには人材育成能力の向上にもつながる。信頼コミュニティは、インターンシップのプログラムを受入企業の担当者たちと開発・検証することを目的とした研究会の存在、学生と同様に、実習支援社員への事前、実習中、事後の支援を行うことによって醸成される。</p>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 学生のキャリア形成にあたって、地域の企業で働くことの意義や社会的価値を醸成するための教育プログラムを産業界との協働に基づいて開発できる。</li> <li>■ 開発された教育プログラムを、大学等のキャリア形成科目等のカリキュラムに反映させることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 学生の汎用的能力を評価するための指標モデルを産業界との協働によって開発・試行できる。</li> <li>■ キャリア形成やインターンシップをカリキュラムに位置づけるための考え方や指導方法などについての教育改善ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 大学等と企業の双方が、学生の自律的能力を育成するための協働型インターンシップのモデルプログラムを開発・試行できる。</li> <li>■ モデルプログラムに基づいたインターンシップに関する授業科目を大学等に導入するためのノウハウを獲得できる。</li> </ul>